

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.9
Q1 室内環境					0.40		-		4.1
1 音環境				-	0.15	3.1	1.00		3.1
1.1 室内騒音レベル		-		-	-	3.0	0.50		
1.2 遮音		-		-	-	3.2	0.50		
1 開口部遮音性能		-		-	-	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能		-		-	-	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		住居部分: Lr-45		-	-	4.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-		-	-	3.0	0.20		
1.3 吸音		-		-	-	-	-		
2 温熱環境				-	0.35	5.0	1.00		5.0
2.1 室温制御		-		-	-	5.0	1.00		
1 室温		-		-	-	-	-		
2 外皮性能		日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級4を超える」		-	-	5.0	1.00		
3 ゾーン別制御性		-		-	-	-	-		
2.2 湿度制御		-		-	-	-	-		
2.3 空調方式		-		-	-	-	-		
3 光・視環境				-	0.25	3.2	1.00		3.2
3.1 屋光利用		-		-	-	3.5	0.50		
1 屋光率		住居部分: 1.5%以上2.0%未満		-	-	4.0	0.50		
2 方位別開口		-		-	-	3.0	0.30		
3 屋光利用設備		-		-	-	3.0	0.20		
3.2 グレア対策		-		-	-	3.0	0.50		
1 屋光制御		-		-	-	3.0	1.00		
3.3 照度		-		-	-	-	-		
3.4 照明制御		-		-	-	-	-		
4 空気質環境				-	0.25	4.6	1.00		4.6
4.1 発生源対策		-		-	-	5.0	0.63		
1 化学汚染物質		建築材料はJIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用		-	-	5.0	1.00		
4.2 換気		-		-	-	4.0	0.38		
1 換気量		住居部分: 換気量=基準法×1.2倍以上		-	-	4.0	0.50		
2 自然換気性能		居室面積の1/8以上の開閉可能な窓の確保		-	-	4.0	0.50		
3 取り入れ外気への配慮		-		-	-	-	-		
4.3 運用管理		-		-	-	-	-		
1 CO ₂ の監視		-		-	-	-	-		
2 喫煙の制御		-		-	-	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		3.1
1 機能性				3.7	0.40	3.2	1.00		3.2
1.1 機能性・使いやすさ		-		4.0	0.57	3.0	0.60		
1 広さ・収納性		-		-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応		-		-	-	3.0	1.00		
3 バリアフリー計画		バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たしている		4.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性		-		-	-	3.5	0.40		
1 広さ感・景観		-		-	-	3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース		-		-	-	-	-		
3 内装計画		・内装の段階でコンセプトを反映させる取り組み ・建物に求められている機能が明確化 ・インテリアパースによる内装計画の事前検討		-	-	4.0	0.50		
1.3 維持管理		-		3.5	0.43	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		極力段差の無い設計をしている		4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		-		3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.1	0.30	-	-		3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振		-		3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		-		3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		-		3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数		-		3.5	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		日本住宅性能表示基準 劣化の軽減に関する事等 等級3相当		5.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-		2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:ビニール床シート、畳(20年)、壁:ビニルクロス貼(20年)、天井:ビニルクロス(30年)		4.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-		3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水・給湯はポリエチレン管(B)、排水(雑・汚水)は耐火二層管(B)		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		-		2.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性		-		3.2	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		-		3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		-		3.0	0.20	-	-		
3 電気設備		-		3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		-		3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		ケーブルTVの引き込みによる災害情報入手および通信手段の多様化、精密機械の地下空間の設置を避けている		4.0	0.20	-	-		

3	対応性・更新性		3.0	0.30	2.8	1.00	2.8
	3.1 空間のゆとり		-	-	2.6	0.50	
	1 階高のゆとり	-	-	-	3.0	0.60	
	2 空間の形状・自由さ	-	-	-	2.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり	-	-	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性		3.0	1.00	-	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	4.4
1	生物環境の保全と創出	生物環境の保全と創出に関して配慮されており、比較的多くの取り組みが行われている 外構緑化指数:20%以上	4.0	0.30	-	-	4.0
2	まちなみ・景観への配慮	アクセントカラーは相模原市の『いきいきとした豊かな自然』と上溝区の『受け継がれる伝統』を抽象化した色を用いている。	5.0	0.40	-	-	5.0
3	地域性・アメニティへの配慮		4.0	0.30	-	-	4.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	地域性・アメニティへの配慮に関して充実した取り組みが行われている	5.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	4.0
LR1	エネルギー		-	0.40	-	-	4.2
1	建物外皮の熱負荷抑制	断熱性能を上げ、建物の熱負荷を抑制している	4.0	0.20	-	-	4.0
2	自然エネルギー利用	-	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	効率のよい設備機器を導入	4.4	0.50	-	-	4.4
	集合住宅以外の評価		-	-	-	-	
	集合住宅の評価		4.4	1.00	-	-	
4	効率的運用		4.5	0.20	-	-	4.5
	集合住宅以外の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	-	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	
	集合住宅の評価		4.5	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	スマートメーターを導入	4.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制	住戸プランで想定される生活スタイルに適した説明を行う計画	5.0	0.50	-	-	
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.9
1	水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1 節水	節水型水栓と節水型便器の採用	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	1.00	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		4.0	0.60	-	-	4.0
	2.1 材料使用量の削減	-	3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	床:グリーン購入法、床・エクステリア:エコマーク商品を採用	5.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	持続可能な森林から産出された木材を50%以上使用	5.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み	内装材と設備が錯綜せずに、それぞれを取り外すことができる	5.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		4.3	0.20	-	-	4.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	PRTR法に該当する有害物質を含まない材料を採用	5.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		4.0	0.70	-	-	
	1 消火剤	-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0.01未満かつGWPが低い発泡剤(GWP(100年値)が10未満)を用いた断熱材等を採用	4.0	1.00	-	-	
	3 冷媒	-	-	-	-	-	
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	-	3.8
1	地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率を抑制している	4.5	0.33	-	-	4.5
2	地域環境への配慮		3.5	0.33	-	-	3.5
	2.1 大気汚染防止	-	3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	風通しに配慮し、敷地外への熱的な影響を低減	4.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	駐輪場・駐車場の駐車施設を確保している	4.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮		3.5	0.33	-	-	3.5
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1 騒音	-	3.0	1.00	-	-	
	2 振動	-	-	-	-	-	
	3 悪臭	-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.7	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	風環境解析による評価で立地の階級より一部が上の階級にある	4.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	
	3 日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害チェックシートの過半を満足、広告物照明はない	5.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	3.0	-	-	-	-	○	○	-	○					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	7.0		○	-	○	-	-	○	○	○	-	○	○	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0		-	○	○	○	○	-	-	○	-	-	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	○	-	-	-	-	-						
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	3.0		○	-	○	-	○	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	10.0		2.0	-	2.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-	
2 まちなみ・景観への配慮	5.0		2.0	1.0	-	-	1.0	1.0							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	5.0		-	1.0	1.0	-	1.0	1.0	1.0	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	11.0		-	2.0	2.0	3.0	-	-	-	2.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	2.0		-	-	2.0										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	○	-	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	4.0														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	14.0		1.0	1.0	-	3.0	3.0	-	-	2.0	3.0	1.0			
2.3.3 交通負荷抑制	3.0		1.0	-	1.0	-	1.0	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	1.0	1.0	-		-	-						
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η)	-
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	0.4
		η AC	1.2
		η AH	-

3.1.1 昼光率

昼光率 1.6%

4.2.2 自然換気性能

自然換気有効開口面積率 15.8%

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース - /人 病床 - /床 シングル - ツイン -

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量 - VA/m²

1.2.1 広さ感・景観

天井高 - m

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース - レストスペース -

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数 75年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔 - 年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔 20年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 - 年

3.1.1 階高のゆとり

階高 - m

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 -

3.2 荷重のゆとり

床荷重 - N/m²

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数 46% 建物緑化指数 0%

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 - 水平投影面積率 - 地表面対策面積率 - 舗装面積率 -

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI_m - 断熱等性能等級 等級5相当

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年m² 採光を満たす教室数 - 採光を満たす住戸数 -

3 設備システムの効率化

太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW

非住宅部分

BEI/BEI_m 再エネ有 - 無 - オフサイト再エネ有 - -

集合住宅の評価

一次エネ削減率 再エネ有 24% 無 24% - -

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率 -

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目 ビニル床タイル エコマーク商品 人口木デッキ材 自治体指定の特定品目等 -

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率 100.0%

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP) - 地球温暖化係数(GWP) -

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 3

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP) - 地球温暖化係数(GWP) -

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 114% 隣棟間隔指標Rw 2.35

地表面対策面積率 50.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0%

見付面積Sb 634m² 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 86.55 m 基準高さHb 9.61 m

緑地 637m² 水面 m² 保水性対策面 m² 高反射対策面 m² 再帰性反射対策面 m²